

文化施設のあり方検討 西蒲区報告書

目 次

はじめに	2
第1章 現地調査とワークショップ	
I 現地調査	3
II ワークショップ	3
第2章 評価結果	
I 「施設の状況」及び「施設の<強み>と<弱み>」 (第1回WS)から判明した課題	15
II その他WSでの意見及び近年の状況を比較したうえでの課題	16
第3章 今後の方向性について	
I 西蒲区の文化施設の再生へ	19
II 短期的改善策 ～すぐに取り組みを始められること～	19
III 中期的改善策 ～今後体制・制度の見直しを要すること～	24
IV 長期的対応策 ～全市的に、新たに制度・体制を検討していくこと～	26
金山アドバイザーからのコメント	28
おわりに	29
資料編	30

はじめに

新潟市は平成17年3月に広域市町村による合併、同年10月には巻町と合併をした。

平成19年4月に政令指定都市に移行し、区制（8区）が導入されたが、旧新潟市に位置する主要な文化施設については運営形態などの検討、見直しを進めてきたものの、地域の文化施設の運営形態はそのままとなってきた。

政令指定都市になって4年経過したこの時機に、旧新潟市を含めた地域の文化施設のあり方を見直すことは、地域そのものの方向付けに結びつくとともに、今後の新潟市の文化創造都市ビジョンの策定にとっても不可欠なものである。

そのため、文化観光・スポーツ部文化政策課において、地域の文化施設に関する現状について洗い出し、地域の声も反映させながらその解決に向けた方向性を探るべく、はじめに西蒲区をモデル地域に選定し、西蒲区役所地域課と共同で検討作業を行うこととした。

法政大学キャリアデザイン学部金山喜昭教授をアドバイザーに迎え、都市政策研究所協力のもと、西蒲区内に所在する5か所の文化施設の実態調査を行った後、各施設に関わる市民や区役所等職員を対象にしたワークショップを実施したうえで、区内文化施設のあり方について調査検討し、次頁以降のとおり報告するものである。

平成24年1月

－ 新潟市西蒲区文化施設のあり方検討 推進体制 －

□新潟市役所文化観光・スポーツ部文化政策課

□新潟市西蒲区役所地域課

□協力

○新潟市文化施設のあり方検討アドバイザー

法政大学キャリアデザイン学部 教授	金山喜昭
-------------------	------

○新潟市文化施設のあり方検討補助員

東京大学大学院人文社会系研究科修士課程 1年生	竹内 唯
慶應義塾大学総合政策学部 4年生	山本 竜也
法政大学キャリアデザイン学部 4年生	橋爪 萌

○新潟市都市政策研究所

第1章 現地調査とワークショップ

モデル地域である西蒲区は、合併した旧巻町、旧西川町、旧岩室村、旧潟東村そして旧中之口村の旧5町村からの構成となっているが、今回、区内における対象文化施設については、

- 巻郷土資料館（旧巻町）
- 岩室歴史民俗史料館（旧岩室村）
- 潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館（両施設が同一敷地内で運営。旧潟東村）
- 中之口先人館（旧中之口村）
- 澤将監の館（旧中之口村）

の5か所に設定し、アドバイザーなど関係者の協力を得て、文化施設の現地調査、並びにワークショップを次のとおり実施した。

I 現地調査

日時：平成23年4月21日（木）、22日（金）

内容：○金山アドバイザーによる西蒲区内施設確認

○その他

- ・文化政策課、歴史文化課、歴史博物館による、金山アドバイザーに対する現状説明
- ・ワークショップ実施内容調整

日時：平成23年6月30日（木）

内容：○都市政策研究所による西蒲区内施設確認

II ワークショップ

ワークショップ（WS）は4回実施したが、その参加者数は92人（延べ人数）である。

なお、文化施設ごとの参加人数（延べ人数）は次のとおりである。

巻郷土資料館：20人（市民16人、区役所職員4人）

潟東樋口記念美術館、潟東歴史民俗資料館
：20人（市民16人、区役所職員4人）

中之口先人館：14人（市民10人、区役所職員4人）

澤将監の館：15人（市民11人、区役所職員4人）

岩室歴史民俗史料館：23人（市民19人、区役所職員4人）

1. 第1回 WS

(1) 経過

日時：平成23年6月1日（水） 午後1時～5時

場所：西蒲区役所302会議室

テーマ：「わがマチの文化施設を良くするために」

WS参加者：28人（市民23人、区役所職員5人）。 ※名簿は資料編のとおり

内容：・オリエンテーション

- ・金山アドバイザーによる講義
- ・WSの目的や約束事の説明
- ・グループワーク（文化施設ごとに良い点と問題点を洗い出す）
- ・各チームによる発表
- ・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

(2) 西蒲区の文化施設における「施設の状況」 参加者からの意見

①巻郷土資料館

	合併前	合併後
良かった→ 悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・旧巻町に学芸員が3名いた。 ・考古資料が揃っていた。 ・移設計画があった。 ・各種要請に対して直に対応してくれた。 ・巻町双書の刊行があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員が0名になった。 ・考古資料の多くが文化財センターに移された。 ・移設計画が白紙に戻った。 ・要請に対して遅れがある。 ・巻町双書の刊行がなくなった。
悪かった→ 良くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・考古資料のコピー制限があった。 ・入場者が少なかった。 ・巻郷土資料館友の会会員が増えなかった。 ・のぞきからくり修復は検討段階であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考古資料のコピー制限が無くなった。 ・入場者が多くなった。 ・巻郷土資料館友の会会員が増えた。 ・「のぞきからくり」の修復がされ非常に立派になって、実演の回数を増やすことが出来る。

②潟東樋口記念美術館・歴史民俗資料館

	合併前	合併後
良かった→ 悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員（非常勤1名） ・喫茶サービス ・小学生の見学にスクールバスを活用できた。 ・入場無料のイベント開催 ・地域の人の作品を展示 ・広報でイベント等を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員（臨時1名）の業務量が増えた。 ・喫茶サービスができなくなった。 ・小学生見学時にスクールバスを利用していたが、できなくなった。 ・イベント時に入館無料だったが有料となった。 ・企画展で地域の人の作品を展示していたが、できなくなった。 ・広報活動がやりにくくなった。
悪かった→ 良くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者が年々減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・動く市政教室等で団体入館者が増加した。 ・旧新潟市からの入館者が増加した。

③岩室歴史民俗史料館

	合併前	合併後
良かった→ 悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、予算が付いた（施設補修関係）。 ・児童、生徒の見学はスクールバスを利用 ・条例があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算がない。 ・児童、生徒の見学時の送迎が無くなった（スクールバス）。 ・条例の廃止
悪かった→ 良くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・物置状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・合併建設計画で新史料館建設の予定が見えてきた。 ・地域住民有志が資料等の整備・管理を始めた（友の会の設立） ・イベント開催における地域活動補助金により活動しやすくなった。また、この補助金によりポスター・チラシのおかげで他地区からの集客が増えた。

④・⑤中之口先人館・澤将監の館

	合併前	合併後
良かった→ 悪くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の事務所が入っていた。 ・スタッフが多かった（先人館…専任2）。 ・予算があった、とりやすかった。…2館共通 ・話が通じやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同事務所がなくなった。 ・→非常勤1、兼務1 ・減額…2館共通 ・通じにくい（担当→区役所→本庁）。
悪かった→ 良くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人が多かった（入館数下降傾向）。 ・広報手段少なかった。 ・ギャラリー展（地元のみ・先人館） 	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者が広域化し、増加…2館共通 ・市の広報誌の利用等…2館共通 ・ギャラリー展広域化（全市）

（3）西蒲区の文化施設における「施設の＜強み＞と＜弱み＞」 参加者からの意見

①巻郷土資料館

＜強み＞	<ul style="list-style-type: none"> ○古文書・民俗資料・考古資料等の資料が多い。 ○全国に誇れる資料を有する。 ・全国で3台しかない、「のぞきからくり」の中で唯一口上実演が可能なものである。 ・越後毒消し売り発祥の地である資料 ・巻郷土資料館は、約60年余の歴史の積み重ねで現在に来ているので、市内、市外の歴史学者に貴重な存在として認められている。 ○西蒲区唯一の無料施設である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外郭団体が充実している ・巻郷土資料館友の会（106名）、郷土誌「まきの木」発行 ○職員の対応が良い。 ○交通アクセスが良い・巻中心部にある。 ○旧消防署跡地の利用の良さ ○学校教育との連携（小中学校が郷土史学習に利用） ○市民講座の開設（古文書講座） ・毎月第1土曜（巻地区公民館）、第2土曜（巻郷土資料館）に実施している。
------	---	---

<p><弱み></p>	<p>●ソフト面</p> <p>①郷土資料館専門施設でない。</p> <p>②資料検索の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な資料があるのにきちんと整理されていない。資料の活用が十分でない。 <p>③職員体制の充実（学芸員がいない。）。</p> <p>④組織体制の強化（行政とのつながり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民から見ると行政が郷土資料の保存、管理及び施設設備の改善に力を入れていない。 ・郷土資料館を良くして欲しいのに何も考えてくれない（郷土資料館建設）。 <p>⑤知名度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧消防署跡地利用のため外観上入りづらい。 ・興味ある人にしか利用されていない。 <p>⑥PRの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集、保存されている郷土資料のPRが不足している。 ・市民がぜひ行きたいと思える場所になっていない ・展示会の入場者数やどんな地域から来館しているかが発表されていない ・まちおこしの拠点として活用されていない 	<p>●ハード面</p> <p>①施設設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料を活用するための学習室が無い。 ・郷土資料館に展示スペースが少ない。 ・美術品等の貴重な資料の保管庫が無い。 ・膨大な貴重な民具を展示する場所が無い。 ・凶書の閲覧場所が少ない。 ・常設展示室が無いため見たいものが特別展示でしか見られない。 ・民俗資料展示室・会議室が無い。 <p>②耐震構造・バリアフリー・トイレの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の老朽化（雨漏り等） ・郷土資料館としての建物でない（旧消防署のため）。 ・耐震構造になっていない。 ・旧消防署のためトイレが男女兼用である。 ・入口や内部に段差が多くバリアフリーでない。
<p><弱み>への改善策</p>	<p>●ソフト面</p> <p>①資料検索がスムーズに行くように資料のIT（情報技術）管理を推進する。</p> <p>②学芸員を置くようにする。</p> <p>③行政の組織体制が煩雑なため、一般市民と行政が郷土資料館に対する知識や認識の共有化をすることが大切である。</p> <p>④市報にいがた、西蒲区だよりなどを積極的に活用する。</p>	<p>●ハード面</p> <p>○新潟市巻郷土資料館条例の設置目的にあった郷土資料の保存・管理及び公開展示に適した施設に改修する。</p> <p>○貴重な郷土資料を保存・管理するため施設を耐震構造に改修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料保管室等の雨漏りを防止するため屋上防水工事を行う。 ・入口及び内部の段差を無くす。 ・トイレを男女別々に改修する。 ・民俗資料の保管倉庫と資料展示室を整備する。 ・凶書の閲覧場所を設ける。 <p>○資料の保管庫を新設する。</p> <p>○展示スペースを取れる建物に改修する。</p> <p>○民俗資料の保管庫が車庫のため、夏は暑く、冬は寒いので改修する。</p>

②潟東樋口記念美術館・歴史民俗資料館

<p><強み></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が大きい。 ・駐車場が広い。 ・庭が広く静かで美しい。 ・美術館と資料館が同じ敷地の中にある。 ・展示品が充実している。 ・ガイドボランティアが活躍している。
-------------------	---

<p><弱み></p>	<p>①・専任館長がない（判断ができない）。 ・展覧会の企画がスムーズに行えない。 ・施設の管理運営（修繕対応等）ができない、または遅れる。 ・入館者が減っている。 ・PR不足 ・展示作品のマンネリ化 ・受付棟の奥にある物産館スペースの利用を</p> <p>②憩いの場がない。</p> <p>③・美術館にトイレがない。 ・障がいのある方が利用できない（美術館と資料2F）。</p> <p>④料金が低い。</p>
<p><弱み> への 改善策</p>	<p>①地元の人達で組織する団体（コミ協）に維持・管理・運営を委託する。その中で館長を置く。若しくは、指定管理者制度へ移行する。</p> <p>②合併前に行っていた受付棟での喫茶サービスを再開する。併せて物産等の販売を行う。</p> <p>③施設の問題なので区へ予算措置をお願いする。</p> <p>④適切な料金設定を検討する。</p>

③岩室歴史民俗史料館

<p><強み></p>	<p>○展示関係 ・民俗史料（展示品）を見学者が手に触れ、利用（活用）できる。 ・展示品を使つての縄ない、ムシロ編み、草履作り等の実演の実施 ・壊れた展示品を修理（大工・鍛冶職人が会員）できる。</p> <p>○勉強の場 ・児童、生徒の勉学の教材となっている。（特に和納小学校は定期的に見学）</p>	<p>○運営面 ・友の会が発足し、定期的に活動（目録、説明資料）している。（手作り史料館） ・公開展を開催し集客実績（けんさ焼き、ご汁等地元料理、バザー）有り。 ・県、市の博物館との協力体制が整った。（資料の貸出、勉強会）</p>
<p><弱み></p>	<p>●ソフト面 ・史料の解説が不足している。 ・実演スタッフの後継者不足。（高齢化） ・開館日を増やし、地域の茶の間として活用したいがハード面が整っていない。 ・児童、生徒の来館時の交通手段が無い。（徒歩。雨天時は延期となる）</p>	<p>●ハード面 ・施設が古く、水道・ガス・トイレが無い。 ・旧保育園の跡地を利用しているため間取りが悪い、狭い。 ・これらが無いため、目標としている地域の茶の間として活用できない。</p> <p>●市との関係 ・区役所の施設に対する認知度が低い。 ・施設管理費がゼロなのはおかしい。</p>
<p><弱み> への 改善策</p>	<p>●ハード面……平成26年からの合併建設計画の実現。</p> <p>●ソフト面……・会員の更なる増員を図る。（どうすれば増員できるか皆さんからお聞きしたい） ・関係機関の理解と支援。</p> <p>●市との関係…友の会による活動をより活発にし、情報の共有化を図る。</p>	

④中之口先人館

<p><強み></p>	<p>○施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設が美しく立派である。 ・トイレがきれい、受付対応が良い。 ・常設展示室とギャラリーがあり、ギャラリーの有効活用が図られている。 <p>○展示内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の偉人が良く理解できる。 	<p>○貴重な収蔵品がある。</p> <p>○シンボル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土俵がある。 <p>○スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間のスケジュールがつくられ計画的に展示されている。児童・生徒の作品も展示されている。
<p><弱み></p>	<p>①来場者が少ない。</p> <p>②展示内容(ギャラリー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示作品に魅力のないものもある。 ・興味のない展示がある。 <p>③知名度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地区の人に場所が分かりにくい。 ・近隣に知られていない。 ・入りにくい。 	<p>④運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示物の説明者が不在 ・受付一人の対応がある。 ・管理する市の職員はどんな人か不透明 <p>⑤市との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市になったら予算も少なく、係員も少なくなり活気がなくなったのはなぜか？ ・市の予算が少なくなった。 ・中之口出張所との関係が薄い。
<p><弱み>への改善策</p>	<p>①魅力ある内容に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人資料をギャラリーに展示、講演会や映画鑑賞など公民館や地域とより密接に協力し実施する。 <p>②・魅力ある作品(知名度)をギャラリーで展示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おらうち」の宝展など親しみやすいギャラリーとする。 <p>③・インターネット、ホームページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内板の増設 <p>④来場者の満足度を高める。(職員研修、有識者ボランティアの活用…)</p>	

⑤澤将監の館

<p><強み></p>	<p>—</p>	
<p><弱み></p>	<p>①宣伝、アピール不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宣伝があまり上手でない」、「来館者」が少ないなどの意見が出た。 <p>②アクセスの問題</p> <p>③サービス不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい景観、環境の中でお茶などが飲める場所が無い。 	<p>④施設問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は20台ほど入るが、大型バスの駐車場はむずかしいので、観光ルートに設定しにくい。 <p>⑤展示物の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館に展示しているが、館での展示が少ない。(館をすっきりさせる意図から現在そうしている)
<p><弱み>への改善策</p>	<p>①・無料開放の日を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内共通利用券(パスポート)を作成する。 ・若い二人のデートコースとして仕掛ける。(カップルは無料に。パンフレットを作成し東京ネスパス(観光スポット)に置く。) ・撮影スポットとしてアピールする。 <p>②・看板の見直し(矢印を工夫する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路から見えるところに看板を設置する。 <p>③・コーヒーやお茶が飲める場所を設定する。(お茶室の活用も図る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所の配置。イベントと販売のセッティングを良くする。 <p>④大型バスが入る駐車場を作る。</p> <p>⑤コピー等利用するなど、古文書の紹介なども工夫する。</p>	

2. 第2回 WS

(1) 経過

日時：平成23年6月7日（火）午前10時30分～午後4時30分

場所：瀧東樋口記念美術館・瀧東歴史民俗資料館→中之口先人館→澤将監の館→
岩室歴史民俗史料館→巻郷土資料館

テーマ：「各文化施設を現地見学する」

WS参加者：20人（市民15人、区役所職員5人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・対象施設の見学（各文化施設に関わる市民による説明案内と質疑応答）

・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

3. 第3回 WS

(1) 経過

日時：平成23年6月27日（月）午後1時～5時

場所：岩室地区公民館講堂

テーマ：「文化施設間・区役所・公民館の連携と、それぞれができることを考えよう」

WS参加者：25人（市民20人、区役所職員5人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・ミニ講演＜市民による文化施設の運営＞（金山アドバイザー）

・グループワーク（文化施設間の連携を考える）

・意見交換

・グループワーク（短期・中期・長期計画を作成）

・各チームによる発表

・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

(2) ワークショップで出された各施設を改善する計画

①巻郷土資料館

短期	中期	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・館内外の整理整頓 ・企画展の準備手伝い ・巻郷土資料館友の会会員として資料館を支援 ・巻「まちなかガイド」として月に1度コース案内研修で訪問する。 ・雨漏り対策を至急実行する。 ・「のぞきからくり」（八百屋お七）屋台制作文化庁補助金確保に努める。 ・紙芝居風「のぞきからくり」（八百屋お七）物語の普及に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員を配置してもらいたい（2～3人）。 ・民具の収納倉庫を確保出来ればしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野田市のように地域社会の拠点となるような西蒲区を代表する資料館を作る。 ・子どもたちの地域を知る発信基地としたい。 ・郷土資料の保存管理及び公開展示に適した施設に改修するか新しくしたい。 ・絵画・書籍・古文書の管理簿の整理（電子データ化含む）

② 鴻東樋口記念美術館・歴史民俗資料館

短期	中期	長期
<p>○ソフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長等の定期・情報交換会 ・西蒲区内のスタンプラリー ・展示替に伴う年2回の休館期間設定(各1週間) ・特別展(年1回)実施のための経費約70万円の予算付けを ・管理棟で子供達の絵画・書道の展示 ・物産館を利用して絵手紙・ちぎり絵等の発表会 ・文化団体の展示・展覧会(写真, 絵画等) ・民俗資料の説明資料(写真・絵)の作製 <p>○ハード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物産館のギャラリーとしての利用 ・美術用照明蛍光灯に交換(両館) 	<p>○ソフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理棟で喫茶サービスを行いたい。 ・展示品を他館と交換展示する(常設展)。→展示の幅が広がる。 ・新収蔵品として尾竹三兄弟の作品収蔵 ・花展を行う、庭で茶会を行う。 ・学童を集め、写生会を行う(風景・民俗資料・マンガ・寄せ書き)。 ・文化施設間(西蒲区内)のホームページ作成 <p>○ハード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭にベンチや花を ・美術館と資料館を繋ぐ渡り廊下の建設 ・資料館の燻蒸(民具・歴史資料) ・老人、障がい者対応施設にする。 ・美術館にトイレ・エレベーター設置 ・美術品の補修・修理 ・施錠方法の改善(美術館の1階展示施設と下の収納施設) ・軸を吊るす金具の交換、額の修復、美術品の汚れの除去(美術館) ・壁紙、畳のリフォーム ・庭に落葉樹を植えたい(松が多い)。 <p>○人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長の設置 ・専従事務職員の配置 ・非常勤学芸員の待遇是正(現在は安易な事務職とみなされている) ・他館学芸員からの指導を得たい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会に運営を移行する(館長設置)

③ 岩室歴史民俗史料館

短期	中期	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・友の会で公開展の企画をし、公民館の協力を得つつ催している。 ・史料館の整理, 運営 ・市民から体験できる館として運営 ・目録, 名札, 説明書(途中), 修理・復元をしている。 ・新しい史料の受け入れ ・実技, 実演者を写真・ビデオで残す。 ・児童, 生徒の見学時の交通手段がないので区役所のマイクロバスの手配 	<ul style="list-style-type: none"> ・新史料館の青写真の設計 ・実演スタッフの後継者育成 ・地域の茶の間としての活用 ・矢羽を作動できるようにしたい。 ・資料の説明書を全て完成させる。 ・小学校等への出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日の日常化 ・常設展示の他, 企画展が開けるスペースがほしい。

④中之口先人館

短期	中期	長期
<ul style="list-style-type: none"> ○常設展 ・資料の入れ替えを適宜実施する。 ○ギャラリー ・年度初めに計画を立て実施している。 ○収蔵庫・土俵 ・資料の整理、昨年度実施、目録・写真あり。 ・年1～2回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展 ・先人資料収集 ・先人の業績について説明する。 ○ギャラリー ・魅力的な展示(集客率アップ) ・展示に関わる講演会 ○収蔵庫・土俵 ・歴史ストリークの展示入れ替え ・土俵の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展 ・先人の発掘 ・インターネットを活用し発信 ・学芸員の採用

⑤澤将監の館

短期	中期	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なPR活動 県内各公民館・老人会などに日帰り・一泊コースでの見学・観光コースをダイレクトメールで提示するなど、各機関に働きかける。 ・看板の修復 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光スポットとしてのPRを進める。(現在、比較的多い高齢者以外の層、特に若年層にもアピールしたものを作る) ・ライトアップ、茶会、コンサート、わらアートなどイベント開催 ・ガイドの養成(方言を含めて) ・区内パスポートの発行 ・澤邸弁当の開発 ・トイレなどの施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則無料化 ・駐車場の整備(来場者増加の実績を踏まえて)

(3) ワークショップで出された各文化施設の連携案

①巻郷土資料館

連携内容 対象施設	施設	事業	人
全施設	<ul style="list-style-type: none"> ・雨漏りの危険性があるので貴重な作品を保管協力できないか。 ・常設展示をしたいものが沢山あるのでスペースをいただけるか。 ・各施設間で古文書等の貸し借りが出来る体制が必要 ・民俗資料を一ヶ所に選別して展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻菱湖、館柳湾とその周辺の人達展 ・絵画、書籍の出張展示 ・西蒲郷土の文人、墨客の遺作展 ・西蒲区に生まれた郷土の先人を継承する展示をする。 ・西蒲区として共有する。例えば、水とのたたかいフォーラムの開催 ・定期的な各施設巡りによるPR企画 ・各施設で「のぞきからくり」を口上師付で定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区に存在する郷土愛好家の連携を図る。 ・まず第一に各施設責任者のコミュニケーションが必要 ・各施設の情報を伝えるコーディネーターがいない。
渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館	—	—	—
岩室歴史民俗史料館	—	—	—
中之口先人館	—	—	—
澤将監の館	—	—	—

② 瀧東樋口記念美術館・歴史民俗資料館

連携内容 対象施設	施設	事業	人
全施設	・ 史跡遺物の展示	・ 展示、展覧会のテーマ毎に連携… (例) 農具、民具、鎧漕、遺跡 ・ 学童の展覧会 ・ 西蒲区の企画展 ・ 西蒲区で共通のパンフレットを作成し各施設を紹介 ・ 共通入館券の発行 ・ 共通割引券の発行 ・ 西蒲区内のスタンプラリー	・ 館長等の定期情報交換会 ・ 他館の学芸員からの指導を得たい。
巻郷土資料館	・ 鎧漕の漁具、民具の展示	—	—
岩室歴史民俗史料館	—	—	—
中之口先人館	—	—	—
澤将監の館	—	—	—

③ 岩室歴史民俗史料館

連携内容 対象施設	施設	事業	人
全施設	・ 収蔵品の貸借（各施設の特別展開催時に伴って） ・ 収蔵品の情報共有	・ 所蔵品の実演（出前） ・ 同一テーマによる同時展示会の開催 ・ 所蔵品の展示交流	・ 収蔵品整理整頓作業の交流 ・ 民具修理依頼があれば出張できる。 ・ 実技・実演の出張
巻郷土資料館	—	・ 「のぞきからくり」を各施設で巡回実演 ・ 特別展開催時に巻の資料の貸し出し（絵画、書籍等）	—
瀧東樋口記念美術館・歴史民俗資料館	—	—	—
中之口先人館	—	・ 先人館でテーマを決めて展示できるのではないかと。 (例：昔の衣服・鍛冶道具)	—
澤将監の館	・ 岩室の資料の展示と実演の公開展を実施	—	—

④ 中之口先人館

連携内容 対象施設	施設	事業	人
全施設	・ 当館の収蔵庫に若干の余裕がある。	・ 他施設の作品を当館のギャラリーで展示できる。 ・ スタンプラリーの活用	—
巻郷土資料館	—	・ 「のぞきからくり」共同開催	—
瀧東樋口記念美術館・歴史民俗資料館	・ 資料の貸し出し	—	—
岩室歴史民俗史料館	—	・ 体験教室の実施	—
澤将監の館	・ 資料の貸し出し	・ 羽黒山共通開催	・ 施設説明者の交流

⑤澤将監の館

連携内容 対象施設	施設	事業	人
全施設	—	・西蒲区全体で期間等を定めてイベントをやる。 ・区内パスポート券を発行。 ・スタンプラリーの企画を設ける。	—
巻郷土資料館	—	・書がたくさんあるので、澤邸で展示する。(床の間などに)	—
渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館	—	—	—
岩室歴史民俗史料館	—	・中之口には鍛冶屋が多かったので、鍛冶屋の資料展示をしてはどうか。	—
中之口先人館	—	—	—

4. 第4回 WS

(1) 経過

日時：平成23年7月5日（火）午後1時～5時

場所：巻地区公民館小ホール

テーマ：「文化施設を運営する行動計画をつくろう」

WS参加者：19人（市民14人、区役所職員5人） ※名簿は資料編のとおり

内容：・グループワーク（合併前後の文化施設のあり方を対比する）

- ・アンケート調査（施設の無料化について）
- ・グループワーク（施設の無料化について）
- ・各チームによる発表
- ・今後の西蒲区の文化施設のあり方に関する提案（金山アドバイザーより）
- ・参加者からの意見聴取
- ・参加者に対するアンケート調査 ※結果は資料編のとおり

(2) ワークショップで出された各施設の無料化に関する意見

	①巻郷土資料館		②渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館	
	賛成意見	反対・その他	賛成意見	反対・その他
無料化について	・有料化できる環境の施設でない。 ・巻地区の市民には、巻郷土資料館は無料であると認識されている。	・特別企画展を開催した場合は有料にしても良いのではないか。 (施設を改善した上で検討)。	・気軽に入館可。 ・年輩の人の入館が多いので負担軽減できる(年金で生活している等)。 ・合併前の無料イベント時に入館者が増えた実績がある。	・少しでも負担する事で、より関心や意識が高まる。 (500円→300円)
無料化で入館者数は増加すると思うか	そう思う —	そう思わない —	そう思う ・入館料の掲示を見て帰る人がいるから。 ・施設めぐりのようなイベント(動く市政教室等)を計画しやすい。	そう思わない —

	③岩室歴史民俗史料館		④⑤中之口先人館・澤将監の館	
	賛成意見	反対・その他	賛成意見	反対・その他
無料化について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域，市民が供出した宝物の資料であるので無料が適当である。 ・民俗史料館という「冠」が付く館は無料であるべき。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・入り口の人件費を削減できる。 ・一度見た人が再入館できる。 ・無料、有料の別があると事務が複雑になる。 ・入館しやすい（例：家族）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金をとることで重さがある。 ・費用補てんの一部になる。
無料化で入館者数は増加すると思うか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間として運営していきたい。 ・無料化になれば増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設は不備が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そう思う。 ・家族の利用が増える。 ・観光ルート作成時に入れやすい（〇〇ツアーの企画）。 ・リピーターが増える（仲間に声をかけやすい）。 	—

【参考】 施設別入館料

	大人	小人	無料対象	平成 21 年度入館料収入
鴻東樋口記念美術館	高校生以上	中学生以下	小・中学生の 土日祝日の観覧	4 5 2 千円
鴻東歴史民俗資料館	5 0 0 円 (共通券)	3 0 0 円 (共通券)		
澤将監の館	3 0 0 円	高校生 1 5 0 円	中学生以下	3 9 3 千円
中之口先人館	2 0 0 円	高校生 1 0 0 円	中学生以下 及び身体障がい者	1 6 9 千円
巻郷土資料館	無料	無料	—	—
岩室歴史民俗史料館	無料	無料	—	—

第2章 評価結果

I 「施設の状況」及び「施設の＜強み＞と＜弱み＞」（第1回WS）

から判明した課題

第1回WSにおける、西蒲区の文化施設における「施設の状況」、及び「施設の＜強み＞と＜弱み＞」を通して、主に以下の「良い点」「悪い点」がそれぞれ見て取れる。

1. 「良い点」

（1）コレクションの充実

多くの施設は保有するコレクションが充実している。生活・文化資料が共通するが、なかでも巻郷土資料館が所蔵する「のぞきからくり」と口上師（館長）による口上のセットは、西蒲区の代表的なコレクションだと言える。

（2）市民グループによる自主的な活動

施設によっては、そこを活動拠点にする市民グループによる自主的な活動が定着化している。これまでに企画展やガイドボランティア、イベントや、地元小学校による授業見学を通して学校との連携もはかられている。さらに、巻郷土資料館友の会のように地域史の調査研究活動が行われているところもある。

2. 「悪い点」

（1）「経常的事業予算」及び「情報の発信手段」の不備

各施設には「経常的事業予算」がほとんどない状況である。

例えば、潟東歴史民俗資料館の企画展やイベントは、コミュニティ協議会に対する、市からの補助金に頼っている。こうした状況の下では、事業活動を安定的に維持することは困難である。文化施設に関わる市民が存在し、主体的に事業を実施する意欲も有しているのに、それを実行できない状況に置かれている。

また、各施設とも広報手段が不十分であることから、地域の内外に情報を発信することができていない。

（2）施設の老朽化、不備と、資料の保存環境の劣悪さ

中でも巻郷土資料館の雨漏りは深刻である。調査では事務室や廊下などに雨漏りが生じていることを確認した。今後、コレクションの展示・保管場所にも広がる恐れがある。

また、岩室歴史民俗史料館は、合併建設計画で予定されている史料館の移転を準備する市民の打ち合わせスペースとしても活用することができるのに、設備が不備（ガス、水道、トイレ）であることによって市民活動に支障が生じている。

さらに、資料の保存環境については、巻郷土資料館は西蒲区内で最も充実したコレクションを保有するが、収蔵庫のような保管施設が限られており、先述の施設老朽化の問題を含め、安全にコレクションを管理できていない。

(3) 施設間の連携不足。市役所・中央の文化施設と、区役所・区内文化施設との連携不足
WSにおいては参加者から連携について積極的な意見・要望が出されていたが、これまでは区内において施設間の連携が行われていなかった。

また、市役所・中央の文化施設と、区役所・区内文化施設との連携についても、それが不十分で、かつ、市における統一の方向性（ビジョン）が不在であるが故に、文化施設を良くするという意欲、目的意識が希薄であった。

(4) 学芸員の不在

関係者には予算面、人員面への期待が強いが、特に施設の事業を行う学芸員の不在は、地域施設の弱み、学芸力の低下を招いている。

(5) 資料の未整備

全般的に、各施設のコレクションは、まだ台帳整理を進めている段階にある。今後は、登録作業などの整理・体系化の充実を進める必要がある。

II その他WSでの意見及び近年の状況を比較したうえでの課題

1. 共通

(1) 現在各施設は区役所が所管するようになったが、実質的には合併前の管理方法とほとんど変わらないままとなっている。具体的には、公民館職員が公民館、体育館、プール、郷土資料館などの管理業務を兼務しており、資料館を専属に運営管理する体制になっていない。郷土資料館には専任職員は配置されず、地域の市民が非常勤職員として施設を管理している。

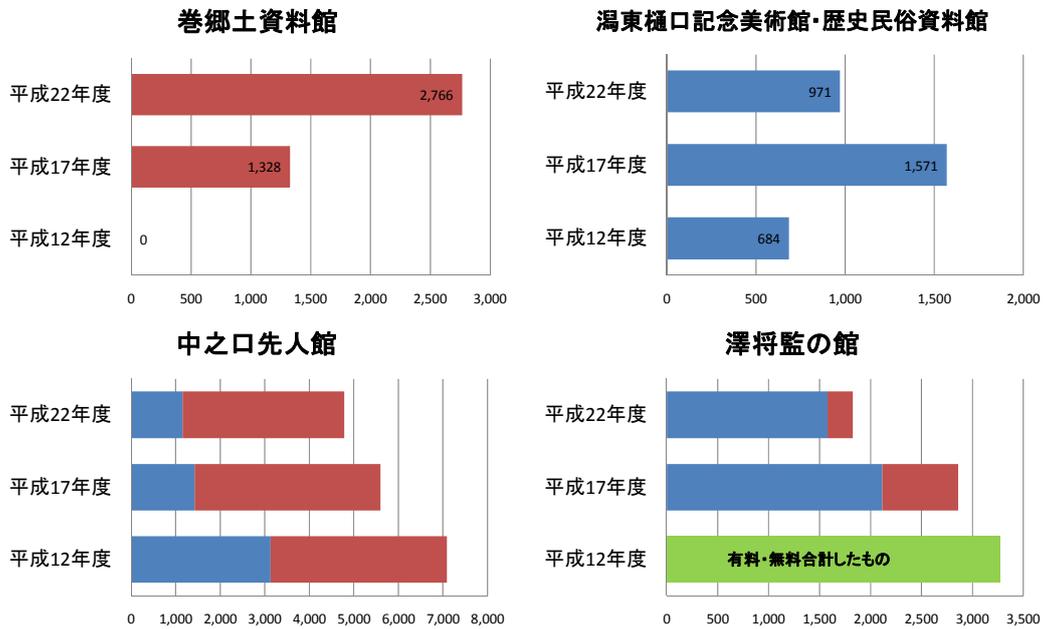
(2) 合併直後は、市報などによる広報により、一時的に来館者の広域化（合併後の市内）がはかられたが、年間の入館者数は巻郷土資料館を除いて総体的に減少している。

巻郷土資料館が合併後に入館者が増加しているのは、平成21年に開催された「水と土の芸術祭」において所蔵品の「のぞきからくり」を補修・出品したことで知名度が上昇したことなどに起因していると思われる。

※次頁比較表参照

入館者比較表 (単位:人)

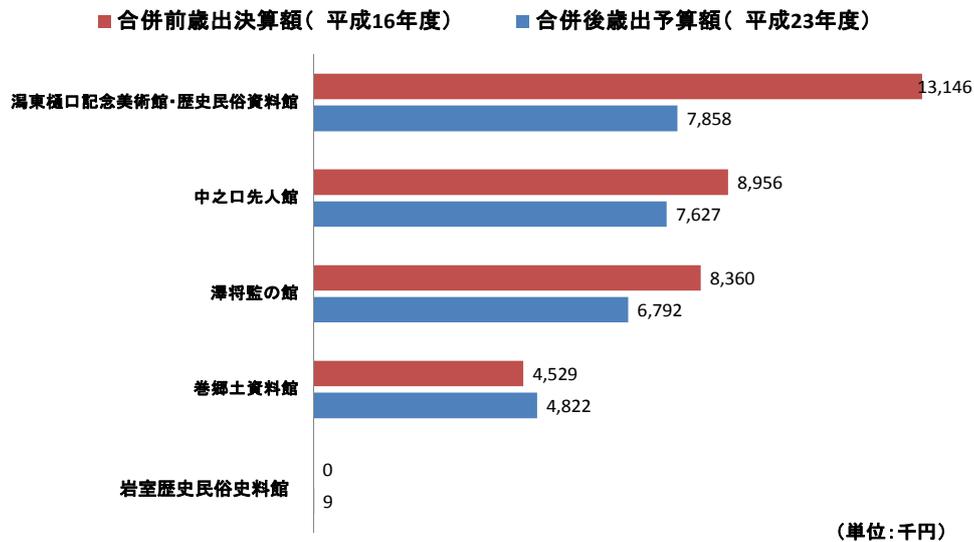
■ 有料
■ 無料



(3) 合併前後は各役場と施設との意思疎通が十分であったが、政令指定都市移行後、区役所が一体として所管となってから、意思疎通を十分に行うことが難しくなったという意見が目立つ。そのため、施設を管理する現場、そして地域が何をやってよいのかも不明確なままになっている。

(4) 平成16年度との比較(次頁対比表参照)において、ほとんどの文化施設の予算額は減額している。そのため、施設をハードのみとして維持管理する傾向が強まっていると思われる。

合併前後歳出対比表



2. 施設別

(1) 巻郷土資料館

旧巻町の合併時に、施設が老朽化しているにもかかわらず、合併建設計画に資料館整備について載せなかった。

(2) 湯東樋口記念美術館・歴史民俗資料館

喫茶サービスをすることで、地元の人たちの憩いの場ともなっていたが、条例規定との整合を図るため、現在は実施していない。このことが、少なからず地元の利用者の減少につながっている。

WSの参加者からは、文化施設を地域人たちにとっての「集いの場」にしたいという要望があったことから、入館者数の増加のみならず、「集いの場」づくりにつながるような施策を進めていくことも大切である。

(3) 中之口先人館

無料で開放するギャラリー空間の利用者数は、これまでも一定数を維持している。しかし、常設展示室（有料スペース）の利用者は減少している。

第3章 今後の方向性について

I 西蒲区の文化施設の再生へ

西蒲区に所在する文化施設は、地域の歴史や生活・文化に関する「歴史・民俗資料館」や、ゆかりの人物の文化資源を取り扱うなど、一定の共通性がある。

いずれの施設も、地域の人たちにとって身近なコレクションを保有しているのも共通点である。

これまで旧町村単位で孤立していた各文化施設を再生するために、現地調査とワークショップから洗い出された課題・問題点をもとに、次の目標を設定した。

- 市民が集う場を確保する。
- 市民が地域資源を掘り起こす仕組みをつくる。
- 市民が自らの地域文化を発信する。
- 文化施設間の連携をはかる。
- 地域のコーディネーターとしての人材育成をはかる。

ワークショップでは、施設ごとに自らの改善計画案（資料編のとおり）を作成するとともに、ワークショップ参加者と金山アドバイザーとの意見交換などにより、再生のための方向性について、

☆短期（すぐに取り組みを始められること）

☆中期（体制、制度を見直したりして取り組みを進めていくこと）

☆長期（体制、制度を十分に検討してから取り組みを進めていくこと）

の3つに分け、それぞれの改善策について報告するものである。

II 短期的改善策 ～すぐに取り組みを始められること～

1. 改善策 短期－1：事業費の確保など

（1）事業費の確保

各文化施設において事業活動を安定的に行っていくことが、施設の活性化に必須の条件であることから、各施設の「経常的事業予算」の確保を図っていくことが、何より重要である。

（例えば、各施設に100万円。連携事業などの共通費500万円など。）

また、情報の発信手段として、ホームページの制作なども検討すべきである。

(2) 市民による事業の企画・運営

各文化施設において、事業を展開するにあたっては、地域の文化施設を「市民による地域文化を創造する拠点」とするため、西蒲区においては、行政は施設の維持管理業務を担い、市民が事業を担う、協働体制がふさわしいと思われる。

市役所・区役所において、文化施設の運営に関する権限や責任の所在を明確にしていくと同時に、西蒲区の文化施設に関わる、地域住民を中心に構成され、区内の文化施設の事業を一元的に運営する組織である、

「(仮) 西蒲区文化施設を運営する市民の会」 (以下「市民の会」という。)

を設置することが、西蒲区内の文化施設の発展、文化振興、ひいては地域コミュニティの発展に資するものとする。

当団体は、市(区役所)から事業(資料整理、展示・イベント、情報発信)等の業務を受けるとともに、施設間の連携をはじめとする地域イベントなどにより、地域文化を創造する活動主体になりうるものである。

なお、検討される具体的な内容(案)は次のとおりである。

(名称)

(仮)「西蒲区文化施設を運営する市民の会」

(組織)

会長・副会長など役員(例えば各地区から2名ずつ推薦)と一定数の会員からなる。

会則を作成し、組織・業務体制を明確化する。

(業務内容)

5つの文化施設の事業の運営(資料整理・展示・イベントなど)や施設間の連携事業などを行う。そのために当該年度前に事業計画や予算書を区役所に提出する。年度の終了時には活動報告と決算書を提出する。

(西蒲区役所との関係)

事務局業務(会計等)は、当面の間、西蒲区役所(地域課)の協力を得て担当する。

あわせて施設管理業務は、これまでどおり区役所の業務とする。

(拠点)

市民の会の拠点は、設立後当面の間は西蒲区役所内に置き、その後〇〇〇館に置く。

(活動)

執行部は会員の意見を聴取、取りまとめをする。

5つの文化施設の事業運営を計画し実施する。

施設間の連携(施設・事業・人)を行う。

施設での市民サービス業務(喫茶、物販販売など)

(新年度の事業計画)

各館ごとに、西蒲区役所と協議しながら事業計画と予算を立てる。

2. 改善策 短期－2：施設の条件整備

先述のとおり、区内文化施設については、施設の老朽化、不備、さらには資料の保存環境の劣悪さが問題となっている。

その改善には、市役所・区役所は、施設の修繕（緊急性を要するもの）などインフラ整備を図るなど、地域の文化施設としてふさわしい各種条件整備をはかっていく必要がある。

主な内容は、以下のとおりである。

（1）巻郷土資料館

事務室や廊下などに雨漏りが生じており、今後のコレクションの展示・保管に影響があると思われる箇所については至急対応を要する。

（2）岩室歴史民俗史料館

ガス、水道、トイレの設備の不備は、地域の文化活動にも支障があり、合併建設計画で予定されている史料館移転の準備にも備えた対応が必要である。

3. 改善策 短期－3：区内文化施設間の連携

（1）施設間の連携

各施設の魅力を高め、より一層誘客を図っていくためには、現在バラバラに運営されている各館の連携を図り、不足する機能の補完を行うことが必要である。

例えば、共通のテーマによる企画展・巡回展やイベントの実施、澤将監の館の座敷や中之口先人館のギャラリーなどを多彩なイベント会場として有効活用すること、潟東歴史民俗資料館での喫茶サービス、澤将監の館でのお茶サービス（以上、実費による提供でも可）などが挙げられる。

ワークショップでは、「文化施設間の連携をはかる」をテーマに、各施設から他施設との連携内容について提案を受けた（施設ごとの詳細な検討意見は資料編のとおり。）。主な内容は、次のとおりである。

- ①巻郷土資料館のコレクションを雨漏りの被害から予防するために、コレクションの一部を中之口先人館（資料保管）や澤将監の館の収蔵庫（古文書保管）に緊急避難させる。
- ②自館の展示室を他館の企画展などのスペースとして提供する。潟東歴史民俗資料館（1階）の展示室、澤将監の館、中之口先人館ギャラリーなど。
- ③岩室歴史民俗史料館のリニューアルオープンに向けた準備のために、中之口先人館のギャラリーで予備的な展覧会をやりたい。
- ④各館でスタンプラリーをする。利用者を線によってつなげて、サービスをはかる。これまで分かりにくかった施設への案内アクセスの改善をはかる。

なお、次頁の図「各施設間の連携」での提案も合わせて、各館が連携・共同した事業展開を行うことについて検討していくものである。

【図】

各施設間の連携

連携をしたい施設 → 連携依頼主 ↓	巻	潟東	中之口先人館	澤将監	岩室
巻		絵画の展示	資料保管	古文書保管	—
潟東	スタンプラリー		スタンプラリー	スタンプラリー	スタンプラリー
中之口先人館	ギャラリー提供 のぞきからくり	ギャラリー提供		ギャラリー提供 共通テーマでの 展示	ギャラリー提供
澤将監	書の展示 和室での展示 スタンプラリー	イベント等 スタンプラリー	スタンプラリー		スタンプラリー
岩室	—	—	資料の展覧会 (資料館の準備)	—	

【参考】

施設別収藏品点数（巻郷土資料館の収藏品の数が他館と比較して多い。）

巻郷土資料館	約 29,800点
中之口先人館	約 2,200点
岩室歴史民俗史料館	約 1,300点
潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館	約 1,000点
澤将監の館	約 700点

（２）本庁・区役所との連携

今年度、(仮称)新潟市文化創造都市ビジョンを策定し、文化芸術の振興について明らかにすることとしており、これに基づき、各区とも連携し、地域の文化施設の改善をはかっていく必要がある。

そのため、すぐに取り組むべき事項を具体的に次のとおりとし、至急に改善をはかっていくものとする。

①各区が抱える問題を抽出し、課題の解決方法を検討するため、あるいは本庁や各区の取り組みの状況を共有し、市として一体的な文化行政を進めるため、本庁関係課（文化政策課、歴史文化課、美術館、歴史博物館、文化財センター）と各区の文化担当者による「文化担当者会議」を開催する。（２ヶ月に１度の開催をめぐりに）

4. 改善策 短期－4：学芸員の配置

合併前には、旧巻町に3名の学芸員が役場に配置されていたが、現在は置かれていない。

合併後は、市歴史博物館の学芸員などから臨時的に指導を受けてきたが、専門的な立場から各施設の調整をはかるためには常駐する学芸員の配置が不可欠である。

また、各施設のコレクションは市・地域の財産であることから、これを良好な状態に保ち、後世に伝えていくためにも、学芸員の存在は必須である。

なお、その際市歴史博物館など本庁所管他館との情報共有を図るとともに、市歴史博物館ないし市美術館の学芸員との派遣、兼務などにより人事交流をはかることも必要である。

◎合併前後の学芸員の比較

	合併前	現在
正職員	3名 (旧巻町)	0名
非常勤	1名 (潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館)	0名
臨時	0名	1名 (潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館)

5. 改善策 短期－5：資料の整理と活用

市内各文化施設におけるコレクション（収蔵品）のデータベース化については、文化政策課において明確な方針を立て作業及びその活用を進めていく必要がある。

Ⅲ 中期的改善策 ～今後体制・制度の見直しを要すること～

1. 改善策 中期－1：地域文化施設の無料化

現在、入館料が有料である対象施設は、渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館、澤将監の館及び中之口先人館である。

ワークショップにおいて、「市民が集う場の確保」、「文化施設間の連携をはかる」ことについて検討・意見交換を行い、現行の有料施設を無料化することについても意見交換を行ったが、

- 無料にすれば利用者が増加するという意見が目立った。
- 無料化によって家族連れが増える、友人に声をかけやすい。
- 入館料の掲示を見て引き返した人を見たことがある。
- 渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館では合併前の無料イベントで入館者が増えた。

など、無料化に対し積極的な意見が多かった。

巻郷土資料館のように、現在も入館者が増加しているのは、「のぞきからくり」の知名度が要因の一つとして挙げられるが、入館料が無料であることも少なからず影響している。

今回のワークショップを通じて、参加者からは「文化施設を地域住民にとっての“憩いの場”“集いの場”にしたい」という要望が挙げられている。地域の文化施設を「市民による地域文化を創造する拠点」にしていくとともに、住民の自発性や自主性を最大限に活かすことができる施設の運営が必要である。

その大きな要素として挙げられるのが「地域文化施設の無料化」である。

旧新潟市と合併市町村との合併協議を経て、それぞれ現在の運営形態となっているが、そのほとんどが合併市町村の運営形態を継承する視点のみで現在に至っている。

現在有料である渦東樋口記念美術館・歴史民俗資料館、澤将監の館、中之口先人館を、地域住民にとっての“憩いの場”“集いの場”にするべく無料化していくことは、地域住民の活動、ひいては地域そのものの活性化に資することになる。

市全体の文化施設の有料・無料の状況、各施設の役割、入館料収入と管理運営に係る経費の比較など、総合的に調査検討しながら、他区も含めこの趣旨による無料化を検討すべきである。

2. 改善策 中期－2：本庁・区役所に求められる取り組み

- (1) 本庁（文化政策課）は、各区の事業の実施が容易となるよう、助言・指導を行うとともに、各区においては、事業の実施にあたり、本庁との連絡を十分に持つこととする。

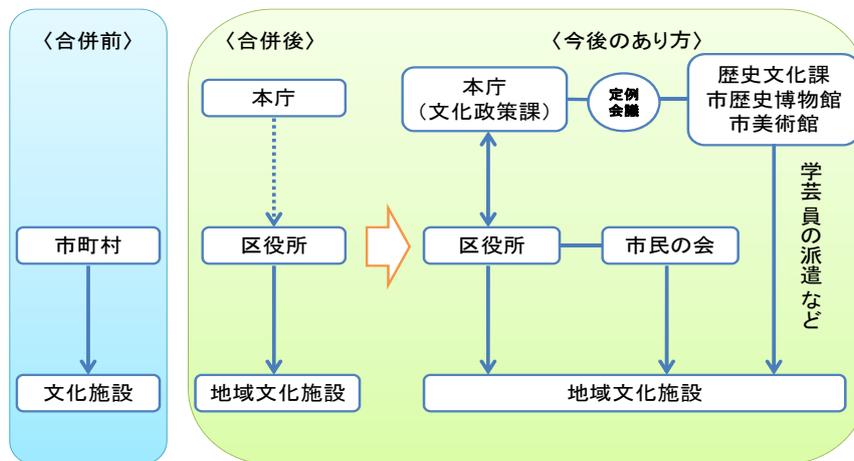
短期的改善策における連携に加え、具体的に次のような方策を講じていく必要がある。

①西蒲区のWSでの成果としての「市民の会」の立ち上げについては、文化政策課がサポートするとともに、WSを開催していない他の区については、文化政策課において十分なバックアップ体制をとる。

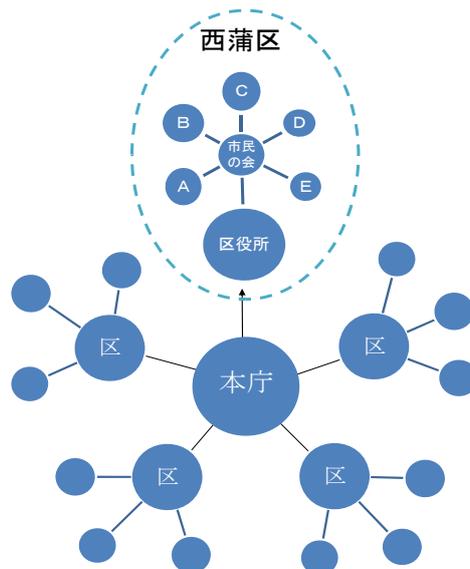
②地域文化施設の無料化や学芸員の区への配置等は、各区固有の問題ではなく全市的な取り組みが求められることから、文化政策課で明確な方針を立て、内部的調整及び対外的方針の打ち出しは文化政策課で行う。

③長期的対応策で述べる、市民学芸員制度及び市民遺産登録制度は、文化創造都市ビジョンにおいて方向性を示すとともに、文化政策課において制度設計を行う。市民学芸員の研修計画は市美術館・歴史文化課・歴史博物館及び文化政策課で立案し実施する。

※参考 新潟市の本庁と区役所の関係と地域文化施設の運営・管理のあり方



西蒲区の文化施設とネットワークの位置づけ



IV 長期的対応策 ～全市的に、新たに制度・体制を検討していくこと～

西蒲区における文化施設のあり方検討を踏まえ、西蒲区のみならず、今後全市的に展開を検討すべき制度・体制があることから、アドバイザーからのアドバイスと合わせ、次のとおり対応策を整理した。

1. 対応策 長期－1：「市民学芸員制度」「市民文化遺産制度」の創設

両制度ともに、地域の力を育て、地域住民の活動を活性化させ、文化施設を充実するためには、重要なものとする。

※この両制度に関する先行的な取り組みについて、アドバイザー及び補助員より、資料編のとおり調査・報告を受けており、これら取り組みを参考に、新潟市に合った制度を検討していく。

(1) 市民学芸員制度

特に地域の文化施設で活動する地域住民が、地域の宝であるコレクションを扱い、展示などを行っていくためには、市歴史博物館・市美術館・市文化財センターにおいて一定のカリキュラム研修（研修計画立案も、市歴史博物館・市美術館・市文化財センター中心に実施）を受講し、学芸業務に関する技能を学んでもらうことが必要である。

職業上の資格である学芸員制度とは異なり、新潟市独自で認定する制度とし、歴史、民俗、美術などの分野ごとに「市民学芸員」として認定する。

(2) 市民文化遺産制度

地域には、指定文化財には該当せずとも、様々な豊かな文化資源が残されている。それは市民の思い出のものや、生活の一風景など多種多様である。

「市民文化遺産制度」は、地域の人たちが自分たちの基準で「地域の文化遺産」として認定し、後世に伝える、また現役のものは実際に生活の一部として活用し続けてもらうことで、地域の文化的歴史的“宝”を守り続ける趣旨である。

さらに、「点」のみの機能が強かった地域の文化施設を、この制度の運用により「面（＝地域全体）」による市民文化活動につなげていくことができる。

このためには、歴史文化課による制度づくり、並びに支援・協力、指導が欠かすことができない。

2. 対応策 長期－2：地域文化施設コーディネーターの育成

(1) 西蒲区内の文化施設について、「(仮) 西蒲区文化施設を運営する市民の会」と区役所が連携・協働で施設管理・事業運営を進めていくことを挙げたが、区役所には、適切な能力、適性、人柄、経験などをもったコーディネーターが必要となる。

区役所がコーディネーター育成を進めていくが、事業を行っていくうえで生じる各文化施設あるいは関係団体との連絡、調整、協議を考えて、必要に応じて本庁にコーディネーター育成組織を設置するなど、体制を強化することが適当と思われる。

コーディネーターは、

- ①区内各地区・文化施設の情報収集、関係団体（各文化施設に関わりのある組織）との意見交換により、各地区とのコンセンサスづくりを行い、施設管理・事業運営を進めていく。
- ②市民の会と連携・情報共有し、学芸員の指導を受けながら、施設や収蔵品の管理、事業の運営について経験を重ね、その知識を習得しながら、各地区の文化・歴史に合った事業展開をサポートしていく。
- ③市民の会以外にも、地域住民からの人材育成を進めていく。

(2) さらに、市民の会に対しても、地域住民自らが運営をしていくうえでの、必要な基礎知識、事業運営方法などを学んでもらい、協働のコンセンサスづくりを行っていく必要がある。

○ 金山アドバイザーからのコメント ○

今後の発展に向けた課題

西蒲区に所在する文化施設は、いずれも区役所が所管する直営施設である。館種や規模、市民が施設の管理や運営に関わっていることなどの共通点を有している。そのことを踏まえて、西蒲区の文化施設のあり方の見直しを行った。その意義の大意は次の通りである。

①まずは、住民への啓蒙活動である。文化施設をただのハコモノとして管理するのではなく、地域の人たちの交流拠点にすることや、文化資源を掘り越して外部に情報発信する機能上の転換をはかる。これまでのように区役所が運営管理するのではなく、地元の人たちが主体的な役割を担うことにしていく方向性を示すことができた。

②現状の文化施設を管理する住民と区役所職員が共同で、自らの文化施設の洗い出し作業を行った。合併前の施設の運営をそのまま踏襲してきたのを、ここで立ち止まって、自らの文化施設の立ち位置を確認する。ワークショップ形式で作業をしたおかげで、参加者は自由に意見を出し合うことができた。なかには行政にとって耳の痛いことも多々あったが、職員にはそれが刺激になり、かつ教育的な効果も及ぼしたと思う。ワークショップは、参加者たち全員は対等な人間関係であることが前提となる。4回のワークショップを通して得られたことは、行政と住民とが対等で、協力し合う関係性を有することを確認するとともに、文化施設ばかりでなく、今後は地域の課題の解決に取り組むための足掛かりにもなったと思う。

③文化政策課にとっては、これから（仮称）新潟市文化創造都市ビジョンを策定することになるが、住民からニーズを把握する絶好の機会になったはずである。しかも、区役所職員とともに意見交換をしながら、現状を評価して改善策の提案まで進めることができた。多くの自治体は、他の自治体の文化政策を横並び式に採用して政策化している。あるいはシンクタンクに委託して無味乾燥なものを仕立てる。それに比べれば、今回のような住民参加による事例は、今後も積み重ねていくことによって、地に足のついた「新潟方式」による独自の文化政策の指針を示すことになる。

④文化政策の指針は、つくること自体が目的ではなく、それを具体的に実行して地域や住民生活を活性化させるなどの成果を出すことができるかの真価が問われる。そのためには、文化政策課による、区役所・地元住民の3者の機能的な関係づくりがポイントになる。区役所と住民との役割分担については提案でも示された通りである。今後は文化政策課と区役所との実質的な役割分担をはかるとともに、文化政策課は区役所にガバナンス機能をもち、文化政策に関わる事項については指導助言することができるようにする。

以上、今回の「あり方検討会」によってまとめられた本報告書での提言を、今後は、市役所・区役所において具体的に実行していただくことを望む。

最後に、西蒲区の住民の皆様方をはじめ、区役所や本庁（文化政策課）職員の努力に期待したい。

おわりに

市内の文化施設全体の機能強化を視野に入れながら、最初に、西蒲区についてそのあり方を検討した。

西蒲区に所在する文化施設は、いずれも区役所が所管する直営施設であると同時に、規模的にも類似しており、市民が施設の管理や運営に関わっているなど、一定の共通点を有している。

今回のあり方検討によって得られたことは、

“地域文化を保護・育成していく活動主体は、地域の住民である。”

ということが言える。

これまでのように市役所・区役所が単に「箱の管理を行う」という現状を改善するためにも、市役所・区役所はその条件整備を進めていく必要がある。

そのためには、今回の報告書に沿って文化施設の再生に関する施策を推し進めていかなければならない。

また、市役所・区役所は、活動主体となる地域住民の自発性や自主性を最大限に尊重し、これを前提として、地域や団体の特性に応じた、きめ細かい条件整備と、それを実施するためのサポート体制をとることが大切である。

資料編

第1回ワークショップ（WS）

○参加者

地区名	氏名	所属・役職等
巻	近藤 義衛	巻郷土資料館運営協議会委員
	本間 一也	巻郷土資料館運営協議会委員
	山口 文雄	13区自治会長
	河合 正士	まち歩きガイド
	小山 則子	巻郷土資料館友の会会員
	篠沢 純作	西蒲区役所地域課（巻文化会館）
岩室	山崎 行夫	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会会長
	伊藤 清	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会副会長
	棚橋 宏	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局長
	広野 孝二	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	廣田 雅憲	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	池田 一秋	西蒲区役所地域課（岩室地区公民館）
潟東	大久保 昇	潟東地域コミュニティ協議会 会長
	佐々木 喜一郎	潟東地域コミュニティ協議会 事務局長
	星野 喜之一	潟東歴史民俗資料館運営協議会 会長
	笹崎 功	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	吉崎 君江	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	笹川 智子	西蒲区役所地域課（潟東ゆう学館）
中之口	如澤 寛	学識経験者
	池田 孝行	西蒲区体育協会
	鏡 幸平	中之口芸術文化協会副会長
	高木 渡満	学識経験者
	小黒 隆彦	学識経験者
	五十嵐 美和子	新潟市公民館活動 協力員
	高津 玲子	中之口東小学校 校長
	北澤 昭松	学識経験者
	南波 友栄	西蒲区役所地域課（先人館館長）
	笹川 久雄	西蒲区役所地域課（先人館）

OWSで得られた参加者などからのコメント

1. WSでよかったこと

他の地域の情報を知ることができた。
改めて資料館の良い所・改善する所を考えられた。
各施設の問題点・運営について学んだ。
考えるべきことが具体的に自分の中に浮かび出てきた。共通する施設について他の人がどう思っているか話し合えた。
グループ内で様々な意見交換ができ、共有できるもの、できないものがありよかった。
巻郷土資料館はもとより他館の実情も聞きそれぞれの問題点を知ることができ大変良かった。
質問の内容が明らかでよい。
現施設の問題点を共有化でき今後の方向性も少し見えてきた。
各施設の状況がよく分かった。良いところ、課題改善解決に向かって具体的になったと思われる。
他の資料館のあり方がよく分かったので、来て良かった。
問題点が多くあると思った。これからの問題点をワークショップを通して解決できるのか？
良い点、問題点、改善策が明らかになった。他の施設のことが理解できた。
各施設の現状と問題点を把握できたことは良かった。
各施設の内容を知ることができた。施設管理者の苦労を知ることができた。自己の施設に自信をもって説明できることが参考になった。人と知り合いになれた。WCの進め方が良かった。
竹内さんに逢えた。ワークショップに慣れていないためにやり方が分かりにくく質問したところ適切に指導をしていただいた。
他の施設がよく分かって良かった。
他の施設の状況がわかってよかった。発表がそれぞれ特徴があつてよかった。
普段なら言いにくい事も気軽に話し合えた。共通の話題にメンバーの人と話し合い近くなったように感じた。
自分の係っている施設の良い所、問題点のはっきり分かった。他館の問題も分かり共有部分もあった。最後に金山先生の改善策を聞くのが楽しみである。
グループごとの問題のはっきりした。他の資料館のよい所、問題点のはっきりし参考になった。話し合いをしてみると個人的にはかなりの違いがあると思われるが回を重ねることによって合意点を見出すことができると思う。
他の施設の状況がわかったこと。自分たちの希望を実現させる機会を得たこと。
各施設とも、それぞれ共通の悩みがあることが分かりました。
今まで行ったことのない施設なのでいろいろな話が聞けてよかった。
他の地区の人とペアになって自己紹介をすることにより、顔見知りが増え、和やかな雰囲気となりよかった。ふせんの色を変えて書き出す「KJ法」の進め方が参考になった。
地域の方々の今の思いを皆で出し合い、模造紙に書きながら現状を確認しあえたこと。皆さん熱心に参加されていたこと。タイムスケジュールがあり、スケジュール通りにWSが進んだこと。「青→良い点、黄色→疑問点、赤→問題点」の付箋の利用方法がわかりやすかった。
様々な人が各々の施設について普段どう思っているのか、色々な意見を聞く事ができた。改善策は参考になるものもあった。西蒲区内に設置してある施設であるが、同じ新潟市内にある施設ということで、各施設の良い点や悪い点等を知ることができた。
各地区の皆さんがWSをとおして自分たちの施設の良い・悪い・問題点を再確認し、他の施設の現状の情報も共有できたことが良かった。これからWSを重ねるごとに西蒲区の今回の参加者同士が仲良くなり、自分たちの施設だけでなく、西蒲区全体の施設に対して何でも気軽に話せる環境づくりの中で魅力ある施設になってほしい。

2. WSの中でこうすればよかったこと

グループを2ヶ所くらいですれば静かにできた。
時間的に窮屈であった。
本日のワークショップの方法が事前に分かればよかった。
休憩時間をきっちりと、もう少し長くあればよかった。
時間が少し足りなかった。事前に考えてきてくださいとの連絡が必要では。
今後3回のワークショップに期待します。
ワークショップの前に岩室のように事前打合せを行えばよかった。
事前に話し合う時間があるとより良かった。
私達の美術の学芸員の名前の発表を忘れてしまったことが残念。
他の館についての知識がないので事前に見学すれば良かった。次の機会に良く見てそれから考えたい。
ワークショップのやり方(まとめ方)等の説明がもう少し具体的にあると良かった。サポートの充実を！時間が長すぎる。
施設見学を先にした方が、施設がどんな様子なのか分かってよかった。
グループ発表の内容で、前段に施設の紹介に時間が費やされて、討議の内容発表が薄れてしまっていた。発表の時間配分に配慮してほしい。
作業が終わらないか心配。
本庁からの職員がもっと来てほしかった。
各施設が立ち上がった動機がもう少し知りたかった。合併前後の問題点をもっと洗い出すべきだ。
リーダーが決まらずに進んでしまった。
発表する前に発表時間(10分)や発表の仕方(話すべき内容など)を伝えてあげたほうがよかったのではないかと(特に最初に発表する人に)。
最後の発表の時に、自分の班の書き込みがまだ出来上がっていない人が、発表を聞かず書き込みしていたので、発表の前に、すべての班の模造紙を貼り出すというのはいかがか。

第2回ワークショップ (WS)

○参加者

地区名	氏名	所属・役職等
巻	近藤 義衛	巻郷土資料館運営協議会委員
	本間 一也	巻郷土資料館運営協議会委員
	山口 文雄	13区自治会長
	河合 正士	まち歩きガイド
	篠沢 純作	西蒲区役所地域課 (巻文化会館)
岩室	山崎 行夫	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会会長
	伊藤 清	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会副会長
	棚橋 宏	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局長
	広野 孝二	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	廣田 雅憲	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	池田 一秋	西蒲区役所地域課 (岩室地区公民館)

潟東	星野喜之一	潟東歴史民俗資料館運営協議会 会長
	笹崎功	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	吉崎君江	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	笹川智子	西蒲区役所地域課（潟東ゆう学館）
中之口	鏡幸平	中之口芸術文化協会副会長
	高木渡満	学識経験者
	北澤昭松	学識経験者
	南波友栄	西蒲区役所地域課（先人館館長）
	笹川久雄	西蒲区役所地域課（先人館）

〇WSで得られた参加者などからのコメント

1. WSでよかったこと

他の資料館の中身を知ることができた。
各地区の施設をよく理解できた。各地区の郷土の歴史を知りえた。
今まで行ったことがある場所だったが、説明を聞きながら回れてよかった。
各施設の見学が出来てよかった。
他の館には館長がおられ、主体的に運営していらっしゃるんだと思い、わが館にも必要なのだと感じた。施設管理面等もよく分かってよかった。
各施設の現状がよく分かった。
皆さんそれぞれの考え、思いを見たり聞いたり、新しい話等よかった。
岩室史料館やカラクリを初めて見れてよかった。他の地域の方と話せてよかった。
他地区の展示の仕方を見てよかった。
施設の特質が分かった。施設の説明が良かった。
岩室の史料館は初めて見せてもらったがとてもよかった。
各施設で巻郷土資料館以外、良く整っていて良かった。いずれの施設も予算措置が厳しい事情が分かった。
初めての見学箇所が有り、知識が増えた。問題意識を持ちながら見学に望めたこと。
他の館の実態が少し理解できた。
初めて西蒲の施設を全て観る事が出来た。旧他町村の施設のりっぱさに感動。当時の考え方・設計で管理等の良し悪しが感じられた。それらが分かってよかった。今後活かして行きたい。
大変立派な施設ばかり見せていただいて助かった。それぞれ、その条件を生かそうとしていることに感心した。
各施設の現状が良く見られて良かった。各施設ともに、それぞれの人が愛している気持ちがぐみ取れた。

2. WSの中でこうすればよかったこと

各資料館を1日で廻るのはきつい。
少し疲れて集中力が切れそうになった。お茶のみの時間が欲しかった。
1日で管内の施設を巡るのは無理。2日で行えばよかった。人数が多すぎた。
こういう催しを再度お願いします。
強行軍だったので、もっとゆったりとしたらよかった。
もっと他の地域の人と仲良くなればよかった。
時間をもう少しかけてはどうか。2日間とか。
途中で飲み物がほしかった。

第3回ワークショップ（WS）

○参加者

地区名	氏名	所属・役職等
巻	川島 常紀	巻郷土資料館運営協議会委員
	近藤 義衛	巻郷土資料館運営協議会委員
	河合 正士	まち歩きガイド
	篠沢 純作	西蒲区役所地域課（巻文化会館）
岩室	山崎 行夫	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会会長
	伊藤 清	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会副会長
	棚橋 宏	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局長
	広野 孝二	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	廣田 雅憲	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	池田 一秋	西蒲区役所地域課（岩室地区公民館）
潟東	佐々木 喜一郎	潟東地域コミュニティ協議会 事務局長
	石井 敏子	潟東地域コミュニティ協議会 委員
	星野 喜之一	潟東歴史民俗資料館運営協議会 会長
	笹崎 功	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	吉崎 君江	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	笹川 智子	西蒲区役所地域課（潟東ゆう学館）
中之口	如澤 寛	学識経験者
	池田 孝行	西蒲区体育協会
	鏡 幸平	中之口芸術文化協会副会長
	高木 渡満	学識経験者
	小黒 隆彦	学識経験者
	五十嵐 美和子	新潟市公民館活動 協力員
	北澤 昭松	学識経験者
	南波 友栄	西蒲区役所地域課（先人館館長）
	笹川 久雄	西蒲区役所地域課（先人館）

○WSで得られた参加者などからのコメント

1. WSでよかったこと

三回目に初めて参加した。各資料館の人たちの話を聞いてよかったと思う。これからの資料館と施設の運営の大変な事がよく分かった。
文化施設の問題点が見えはじめたようだ。
今後の西蒲区の歴史資料館が進むべき先が見えてきたかもしれない。
各地域の施設を誇りに思っていることが感じられた。今後の運営方法の具体案も出されたし良かった。これからの危機感も共有できた。
各施設の課題が承知できた。
色々の施設の問題点が分かってよかった。スタッフ（指導者も含め）や区役所の人たちから私達の生の声を聞いていただいてよかった。ぜひ予算に反映してほしい。
他の施設の問題が浮き彫りになってよかった。

文化施設の管理のあり方、運営についてまだまだ行政頼みの考えが強いことを知った。自分たちの考えを伝えられたこと。
文化施設の運営として地域の核とならねば、先細りとなる危機感を意識することが大切であることを感じました。
具体的な内容が見えてきた。先生から次回の意見・要望を参考にしたい。
先回よりもより問題点が深められた。
初めての参加でしたが、これからの文化施設のあり方が少し見えてきたように思う。地域で利用することが離れてきたように思ったのでこれから考えて利用人数の増加と地域の人たちの利用を進めたいと思います。
先人館の館長の意見に感じ入りました。沢館長さんの意見、大切なポイントだと思います。回を重ねるごとに深くなりよく分かるようになった。ありがとうございました。
他の施設もいろいろな問題があるのが分かりました。（入館者等が減ってきているなど）
他の館の運営方針希望、進めたい方向が分かって参考になった。当館は館を愛する学芸員の先生、ガイドボランティアの方々、管理人にも恵まれ、さらに地域の方向性を先読みしてくださるご協の方々にも恵まれ、郷土は恵まれていると思った。岩室の友の会は地域の力を活用できており、行政はただのバックアップという理想であると思った。行政主導では地域の人は何も楽しくないし、やりがいを感じないと思う。
各館の課題・問題点がおぼろげながら理解できた。旧町村時代と現在おかれている公共施設の管理・運営及び美術館・博物館・資料館の在るべき姿が、旧町村時代の設立経緯によって違いが明らかに認められた。野田市郷土博物館の事例は大いに参考になった。
各文化施設間の施設を運営する上での問題点がはっきりしてよかったと思う。
他の地区が取組んでいる事やこれからの問題点が認識できたこと。
他地区との作品の交換が出来る。
今までの既成概念でこりかたまっていたことが、金山先生の新しい考えで、新しく「考え方」を教えてもらい助かった。ワークショップの方式で個人個人の考えが出せて身近な問題として真剣に考えていくことができてよかった。
各施設の現況を聞いたこと。各施設のあり方、スタートの異なりを知ったこと。5施設それぞれ地域の歴史を重ねていること。
他の施設の事とか分かってよかった。他の館より中之口は恵まれていることも分かり始めた。今後がどうなるか楽しみ。
自分の思っていたことと内容が全く違っていたことがやっと理解できました。（2回目出席できなかった為）
厳しい時代に入ったという認識。それでも文化財保護という観点が忘れられない。無料にしてもよいのでは・・・ということが残った。
指定管理者制度と市の文化施設（西蒲区）の方向性等、そしてこのワークショップの意義をはっきり聞く事ができた。
施設間で連携していくことは、色々な面で良い効果があるということが分かりました。
金山先生からこれからの文化施設のあり方をお話いただき、みなさんも考え方が少し変わったのでしょうか。このままでは危ないぞというお話は、やはり行政側からはしづらいことなので、良かったと思います。それにしても、すぐに地域でというのも、キーマンがいないとなかなか大変なので、サポーターとか応援団的になっても良いという人々をつくるきっかけづくりは、全くないところから作るには、行政がしていかないと難しいのかなあとは思っています。
中之口先人館の発表の時、金山先生の指摘（このままの状態でのよいのか？）については、感じさせられるものがあった。澤将監の館の際の金山先生の指摘はこのワークショップの意味を再確認させられた。

<p>金山先生の司会のもと活発に意見交換がなされて、ワークショップにまとまりがあった。参加者ひとりひとりがよく発言をしていて、人選が良かったと思う。問題意識が希薄な施設に対し問題点についてよく説明がなされていた。</p>
<p>区民の方々が30名近くもの方々が真剣に地元施設のために意見を出し合う光景が拝見できた。西蒲区では地区ごとに代表的な施設があるようでそれぞれの地区の方々が大変まとまりのあるグループを形成しているように感じた。講師の先生から、施設の直営で運営していたのでは状況は良くならないと教えられた。地元の施設について考えを改めなければならないと考えさせられた。</p>

2. WSの中でこうすればよかったこと

<p>これからは各施設と色々連携を行っていききたい。企画も色々出てくると思う。</p>
<p>行政チームのワークショップがほしかった。</p>
<p>指定管理が出来るグループが西蒲区でどの位あるか、またこのような館を指定管理する企業はあるのか。</p>
<p>自分たちの施設を地域の宝と思っているのか？これからのことを考えるとお荷物になる可能性もあるとおもっているのか？</p>
<p>課題・要望等で市側の意見も聞ければよい。</p>
<p>スタッフの方々、区役所の方々からの意見も聞いてみたい。</p>
<p>要望もない。同じレベルの人たちと話し合いたい。</p>
<p>グループのリーダーが意見の引き出し、整理のまとめをしっかりと行えばよかった。</p>
<p>施設の改良等が多くあるので役所の考え方も聞きたい。</p>
<p>「中身をもっと整理しましょう」が大切だと思います。</p>
<p>地域に開かれた美術館を目指す。</p>
<p>施設の運営について、行政が関与すべきか、地域が主体的に進むべきかについて、もっと掘り下げて議論する必要があるのではないかな。</p>
<p>今回初めてなので（既の実施されているのか）スタートとして各館の現状と課題（施設・人・収蔵資料等）が明確化されていると理解に役立ったと思う。</p>
<p>もう少し書き出すのを多くすれば良かった。帰って宿題と一緒に書き込みます。</p>
<p>区役所チームがなくなり残念。今の認識を次回までに聞かせてほしい。</p>
<p>なかなか発想の転換ができない。古い考えしかできないので困っています。</p>
<p>施設のあり方と市民の要望はなにかを検討する必要があるのではないかな。（参加しているのが市民である）</p>
<p>入館数ではなく運営をどうするか。最初から言ってもらった方が良かったのではないかな。</p>
<p>他地区の場所の道路図を各展示場におく。</p>
<p>①市民の利用度があがる事で行政が行う意義が出てくる。②それは正しいと思うので考えを新たにしたい。③澤将監の館はどうしても観光資源として考えたいという思いがあり、①のこととは別にこの話し合いに、公民館部局が特に観光担当の参加があつて良かったのではないかなと思った。</p>
<p>市長にも出席してほしい（こんなに良い話が聞けるのに）</p>
<p>先生のお話が聞けてよかった。（本音）でも、なぜか寂しい気持ちになった。</p>

第4回ワークショップ（WS）

○参加者

地区名	氏名	所属・役職等
巻	近藤 義衛	巻郷土資料館運営協議会委員
	山口 文雄	13区自治会長
	河合 正士	まち歩きガイド
	小山 則子	巻郷土資料館友の会会員
	篠沢 純作	西蒲区役所地域課（巻文化会館）
岩室	山崎 行夫	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会会長
	伊藤 清	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会副会長
	棚橋 宏	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局長
	広野 孝二	岩室歴史民俗史料館運営協力 友の会事務局
	池田 一秋	西蒲区役所地域課（岩室地区公民館）
潟東	星野 喜之一	潟東歴史民俗資料館運営協議会 会長
	笹崎 功	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	吉崎 君江	潟東歴史民俗資料館運営協議会 委員
	笹川 智子	西蒲区役所地域課（潟東ゆう学館）
中之口	鏡 幸平	中之口芸術文化協会副会長
	高木 渡満	学識経験者
	小黒 隆彦	学識経験者
	南波 友栄	西蒲区役所地域課（先人館館長）
	笹川 久雄	西蒲区役所地域課（先人館）

○WSで得られた参加者などからのコメント

1. WSでよかったこと

このワークショップをひらいた意味がよく分かったし、先生が言われるように最高のタイミングだと考えます。人と金が問題になると思いますが岩室の場合、予算0がたとえ50万でも100万でも助かります。人の方は資料館とか博物館は学芸員がいるかないか大きいので一人でも多くの学芸員をお願いします。
いずれの施設も問題・課題が多い。市からの運営面や予算の確保に期待します。
自分の施設ではどうすれば良いかが他の施設の話や見たことにより方向が見えてきた。
今まではそれぞれの立場で自館しか見えていなかったが、今回のWSで他館の実情や運営方法等聞けて良かった。最後のまとめについては、第3回の先生の見解の内容から察すると今回は指定管理者制度へと向かうべきと予想していたのでビックリ!!
現在の館の抱えている問題点を細かく書き出すことができ、色んな事を改めて認識できた。今後の方向性の中で金山先生の提案は理解できるが実現するのは難しいと思う（市民の会の立ち上げ運営）
市民の皆さんが自分達の施設のために真剣に考えておられ、いろいろな意見を聞くことができました。このような意見を聞く機会はなかなかないので、良い経験となりました。将来このような市民の皆さんが中心となっていけば、よりよい施設運営ができると思いました。
区内の状況がよく分かった。近い将来の施設、管理運営、活用、伝承の方向性が見えてきたようだ。
金山先生のご指導でよい方向に向かって行きそうなので良かったです。ワークショップで色々な方向からの意見を聞けたし自分達の思っている事も発表でき良かった。各地区と一緒に協議会で連携できるので良かった。

やっと文化関係の話の目鼻がついたような気がする。光がさしてきたようだ。文化関係のことになると中々耳をかせる人が少なく苦ばかりが多くなります。

税の減少、税の有効活用から、文化施設の運営についても市民の厳しい目があることを再確認した。

各文化施設の方向性が見えてきて良かった。これからは実現に向けて連携して進めてほしい。

2. WSの中でこうすればよかったこと

最後に先生が適切にまとめて下さいましたが岩室の現在の資料館の収集に50年再び整理をはじめて3年間、友の会ができたりして・・・今までの経過をみて常々考えてきたこととほとんど同じだということに気づきました。ぜひ市民に進言して先生の考えが実現するようにお願いします。

主催した区役所・参加した関係課職員の意見発表があっても良かったのでは。

区役所がどう考えているかを知りたい。4回とも全部出席するのは難しいと思うが1回も出席しない参加者がいる施設は対処を考える必要がある。

メンバーの人選に時間的ゆとりがあればよかった。8人位のメンバーがよかった。公民館長が入っていればなお良かった。西川地区からも入ってもらう方がよかったかな。なるべく早く連絡協議会的な場を設置すると良いと思われる。ありがとうございました!!

先生のまとめについて、今出席している行政（本庁、区役所）にも意見を聞いてもらいたかった。

地域を生かした文化財、館などの運営ということは十分理解をしているところではありますが、その尺度とは何か？人が多く入れればよいのか、地域の理解があればたりるのか、市民からの目線、運営する側の目線をどの尺度で計れば良いのかという基本的なものもお願いできれば幸でありました。

文化施設に関する調査

～市民学芸員制度と地域資源発掘の事例

「市民学芸員制度」：市民学芸員と博物館が協働で展示や教育普及活動など運営を行う。

1. 市民学芸員制度について①

～相模原市、浜松市

相模原市
市民学芸員の人数:50名程度
実際に活動している人数:30名
具体的な活動:
・市立博物館内で行うクイズラリーの準備
・展示の準備
・学芸員の調査や資料整備の補助
マネジメント:
担当の学芸員を置く。
養成方法:
・毎年、博物館の学芸員が中心となった研修を実施
・昨年:6回
・本年:3回

浜松市
市民学芸員の人数:120名程度
実際に活動している人数:63名
具体的な活動:
・体験活動の手伝い
・展示の立案、準備(常設展示室のリニューアル)
・夏休みやGWなど催し物の際に準備
マネジメント:
館長が主導して行う。
養成方法:
・毎年、博物館の学芸員が中心となった研修を実施
・参加回数によって市民学芸員としての認定を行う。
・本年:12回

1. 市民学芸員制度について②

～袖ヶ浦市、伊達市

袖ヶ浦市
市民学芸員の人数:43名
実際に活動している人数:28名
具体的な活動:
・博学連携活動のサポート、レクチャーへの参加
・展示の解説
・屋外の施設解説
マネジメント:
担当の学芸員を置き、中心となって取りまとめ
養成方法:
・毎年、博物館の学芸員が中心となった研修を実施(7～10回)

伊達市
市民学芸員の人数:6名
具体的な活動:
(博物館ができた場合……)
・ガイドランスのスタッフ
・保存や保全などを行う。
・新しい博物館構想の検討
マネジメント:
担当の学芸員を置く。
養成方法:
・いつでも自由に開始できる。
・大学からの博物館実習に合わせて、学芸員の人と一緒に1週間程度、実習
・テーマを決めて、レポートを執筆

1. 市民学芸員制度について③ ～養成講座について

浜松市の事例

講座予定		
4月24日	ガイダンス	博物館群や施設公園を含めた期待される活動内容を紹介。
5月22日	展示解説(1)	博物館の展示の見どころを紹介し、地区の歴史を見直す。
6月26日	展示解説(2)	企画展示の内容と構成を紹介し、新たな展示に役立てる。
7月24日	体験型事業	博物館の夏休み体験事業に参画(計画・準備・実務)
8月21日	体験型事業	博物館の夏休み体験事業に参画(実務と評価)
9月25日	館の環境保全	博物館や資料館の品物を虫害や徴害から守るには
10月23日	資料の取り扱い	博物館や資料館の品物を実際に取り扱います
11月27日	展示の企画	地域の歴史・文化資料を紹介する小展示を企画します
12月25日	体験型事業	博物館の冬休み体験事業に参画(実務と評価)
1月22日	歴史ネットワーク	博物館や資料館で開催する事業を地域の中で考えます
2月26日	展示の実務	これまでの実践をもとに、博物館で展示をしてみます
3月26日	まとめ・修了式	博物館や資料館を地域とつないでいただくよう期待します

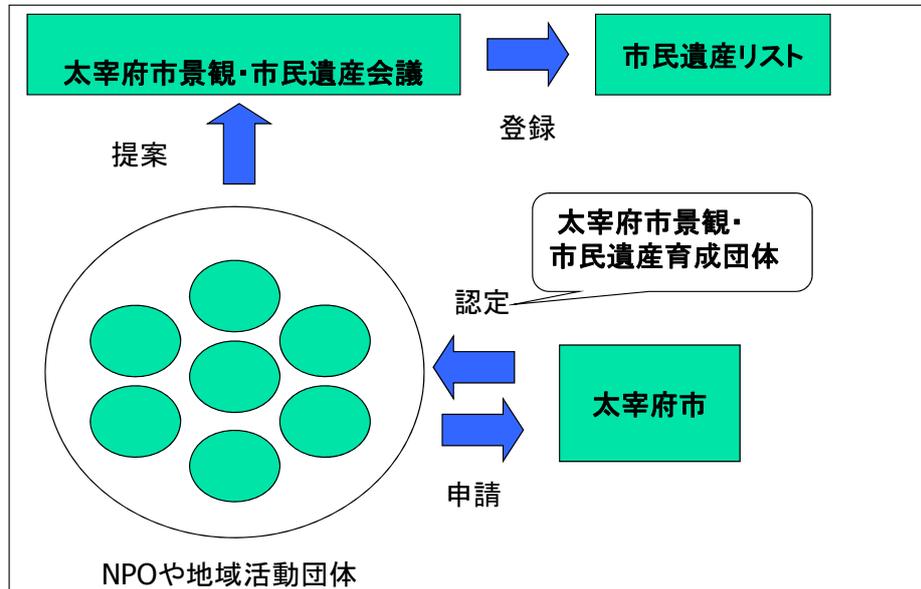
「市民文化遺産制度」:文化財未満の地域のお宝を市民遺産として、市民レベルで提案・認定する。

2. 市民遺産制度について ～太宰府市の理念

- 2つの柱
 1. 市民が大事にしたい「大宰府」を調べて記録し、その情報を広く公開し活用する。
 2. 市民が大事にしたい「大宰府」を、多くの市民で共有し、育成・保護する。
- 市民遺産の3つの要素
 - 関連文化遺産群
 - 物語
 - 活動

根拠：太宰府の景観と市民遺産を守り育てる条例

2. 市民遺産制度について ～太宰府市の仕組み



2. 市民遺産制度について ～岩手県遠野市の事例概要

- 遠野遺産とは・・・
これまで遠野の人々が大切にしてきた「たからもの」
- 「遠野遺産認定制度」の目的・・・
 - ①市民と行政とが協力して保護・活用
 - ②次世代の子供たちに伝えていく。
- 平成19年4月創設（運用開始から5年が経過）
- 5年間で107件の遺産登録が行われた。
- 「遠野遺産」の種類
一条例内で、以下の4種類が示されている。
 1. 有形文化遺産
 2. 無形文化遺産
 3. 自然遺産
 4. 複合的遺産

2. 市民遺産制度について

～遠野市「遠野遺産」認定の仕組み

- 遠野遺産認定条例(平成19年3月23日制定)に基づいて、遠野市長が認定を行う。
 - 認定の要件
 - ①郷土の特徴を象徴している(地域性の重視)。
 - ②市民によって保護され、認定後も継続的な保護、地域振興へつながる(市民による活動の重視)。
 - 応募資格
推薦者が、遺産候補を保護・活用する団体であること
 - 認定までの流れ
 - ①募集開始(年に1回)
 - ②遠野遺産候補推薦
 - ③候補リスト登録
 - ④遠野遺産認定調査委員会(有識者、各種団体の役職員に市長が委嘱)による調査
 - ⑤遠野遺産認定
- ※「遠野遺産」は、文化財保護法に定める「文化財」(教育委員会が指定)とは関係なく、要件を満たせば認定しており、同じ文化財が双方に重複して登録されている場合がある。

2. 市民遺産制度について

～制度の具体的な運用

- 条例上で規定された保護・活用のための取り組み
 - 市
 - 遠野遺産への汚損、損傷、消失の恐れのある行為の実施主体に対する保護の要請
 - 遠野遺産についての市内外への広報活動の実施
 - 市民
 - 遠野遺産が市民共通の財産であることを認識し、保護及び活用に努める(滞在者にも適用)。
- 市による活動
 - 遺産についての詳細なパンフレット作成(毎年度)
 - 遺産の保護・活用の活動に関し、補助金を申請できる(「みんなで築くふるさと遠野」推進事業補助金)。
→周辺整備、伝承事業、パンフレット作成など